

補足：閉鎖性海域(St.2,4,8)における環境の変化(1)

資料3

評価書における予測

【工事の実施段階】

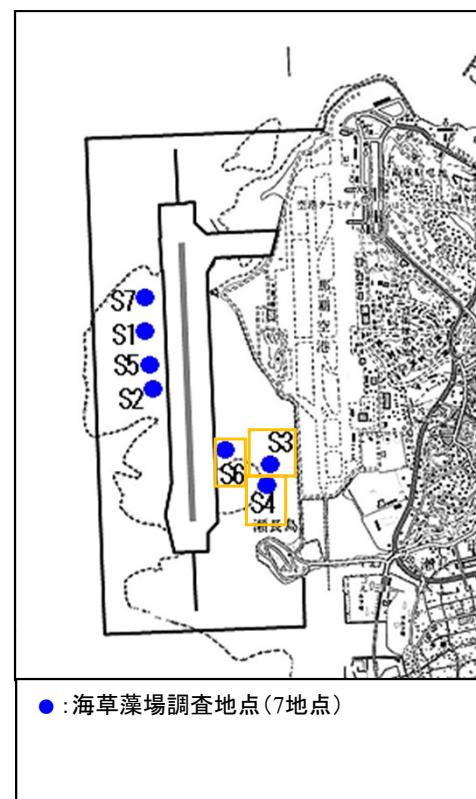
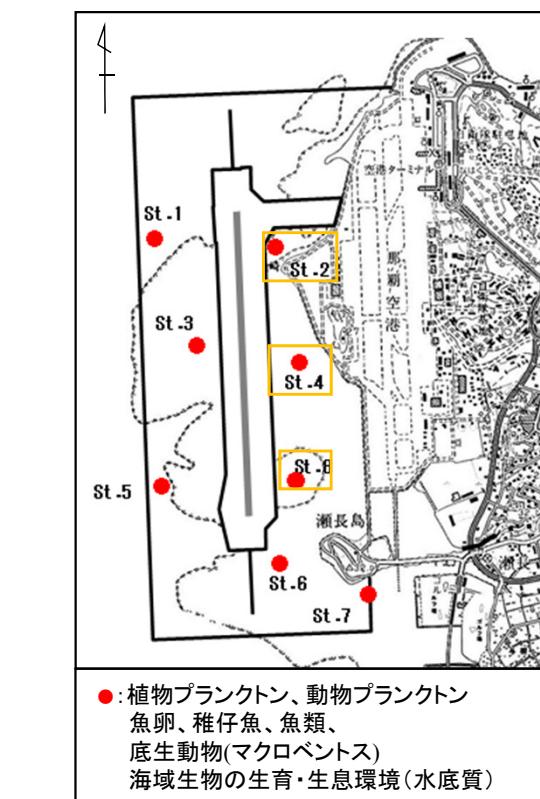
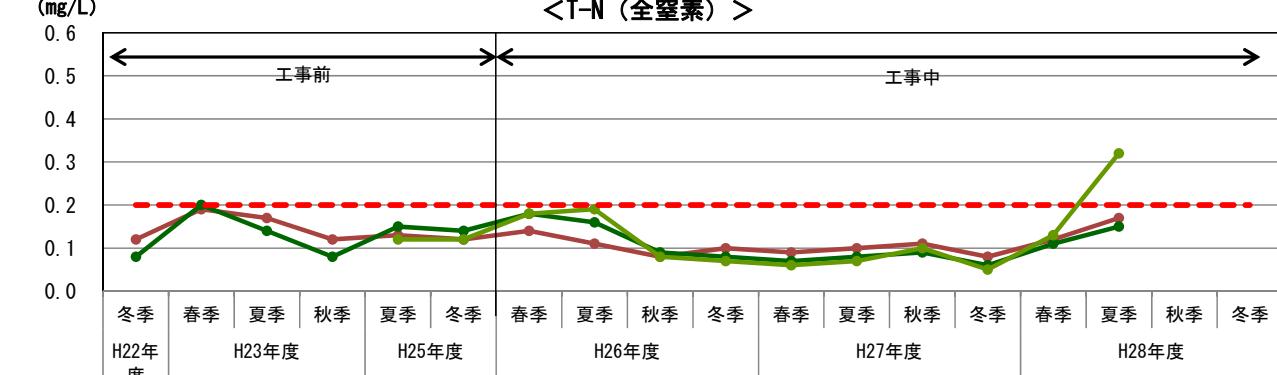
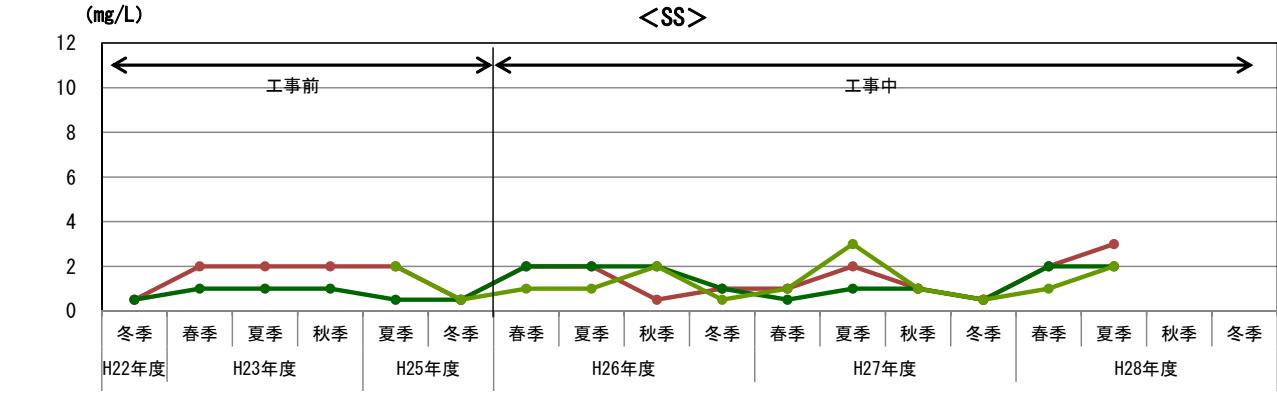
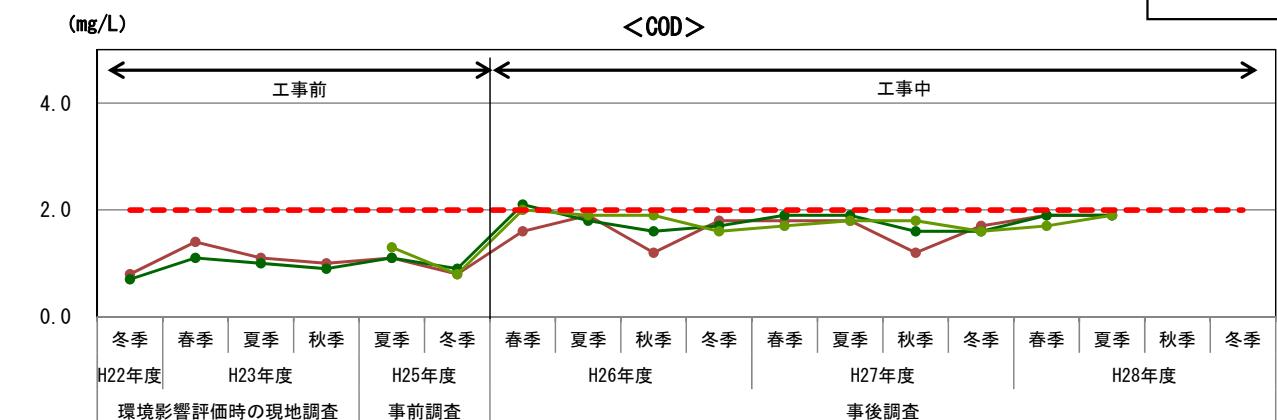
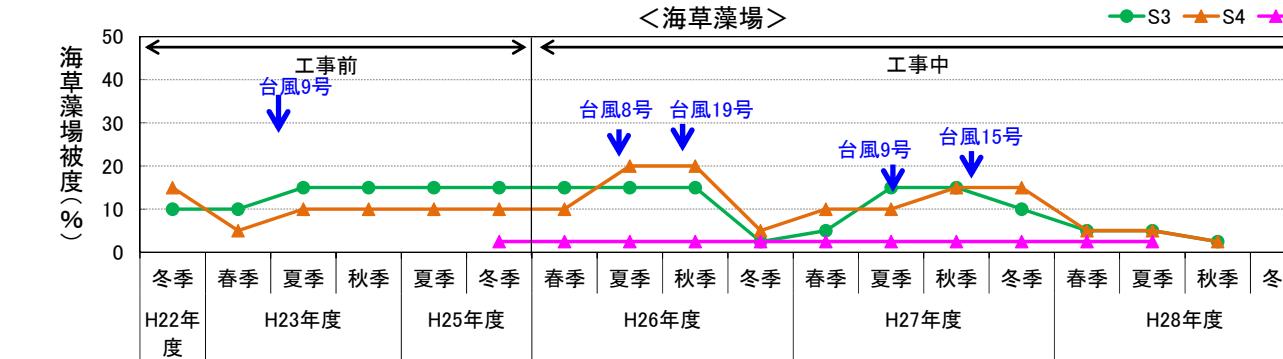
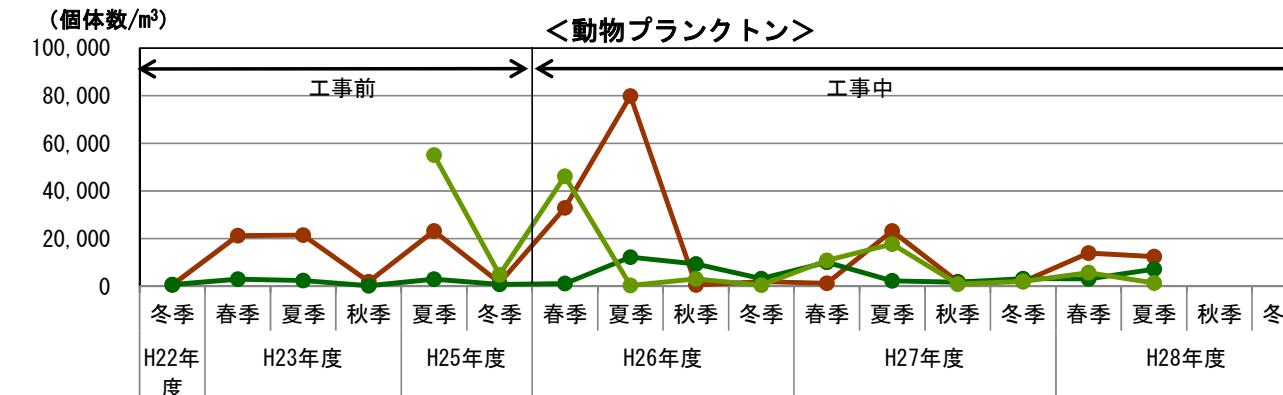
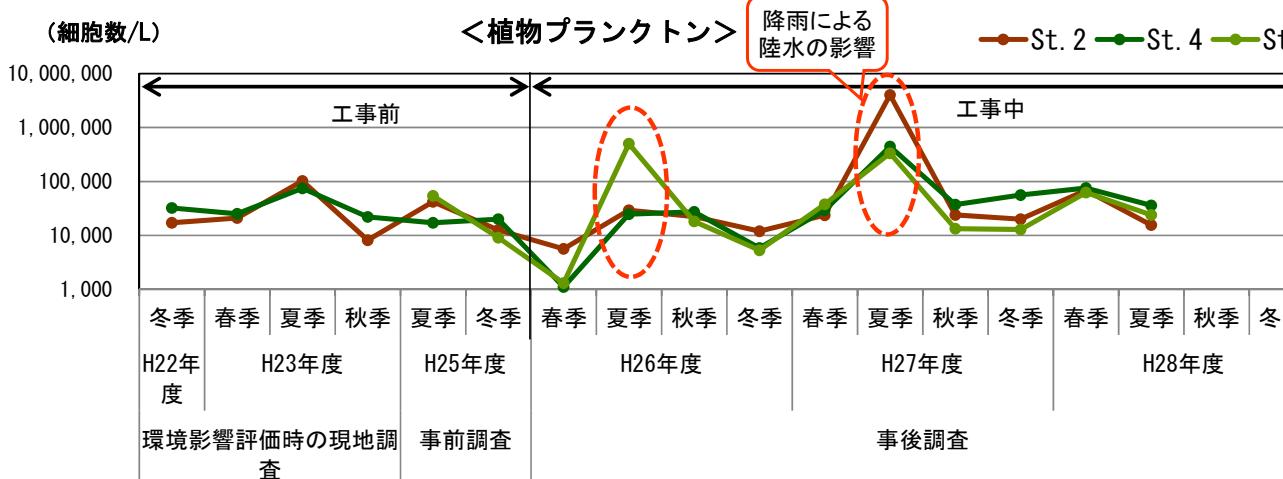
- 海域生物は濁りの発生によって、限られた範囲において影響を受ける。

【土地又は工作物の存在時】

- 水質について、環境保全措置を講じることでCOD濃度の変化は小さく、T-N及びT-Pは水質濃度が増加する。
- 底質については、環境保全措置を講じることで水の汚れが底質に及ぼす影響は低減される。長期的には細粒分が堆積する。
- 底質の長期的な変化により、砂泥質や泥質を好む底生生物へと生物相が変化する可能性がある。
- 波浪が遮蔽されることで場が安定し、海草藻場の生育状況は向上する。

まとめ

- 評価書における予測とこれまでの調査結果を比較すると、現時点で予測と大きく異なる変化は見られていない。
- 予測において、長期的には生物相が変化する可能性があるとされていること、これまでの調査結果において、一時的な植物プランクトンの増加、台風等波浪による底質とベントスの変化、海草藻場の被度低下等、一部の地点で変化が見られていることから、生物相が遷移していくことを踏まえたモニタリングを行う。



補足:閉鎖性海域(St.2,4,8)における環境の変化(2)

資料3

経年変化

